

【 検査 】

532 フェリチン半定量（貧血）の算定について

《令和7年5月30日》

○ 取扱い

貧血に対するD007「25」フェリチン半定量の算定は、原則として認められる。

○ 取扱いを作成した根拠等

フェリチンは肝、脾、小腸粘膜などに含まれる鉄たんぱく質で、血液中に微量に存在し、体内貯蔵鉄量を反映する。鉄代謝異常の鑑別診断に用いられ、鉄欠乏性貧血では低値を示し、他の貧血や鉄過剰症（ヘモクロマトーシス、輸血後慢性鉄過剰症、血球貪食症候群や成人スチル病など）では高値を示す。発症頻度が最も高い鉄欠乏性貧血に限らず、ほとんどの貧血は鉄代謝異常を伴うため、貧血の鑑別診断や治療選択に本検査は必要である。

以上のことから、貧血に対するD007「25」フェリチン半定量の算定は、原則として認められると判断した。